あさのちゃんねる

医療法人社団　浅ノ川
浅ノ川総合病院 広報誌　2012年11月号（年4回発行）

イメージキャラクター
あさのちゃん

心と心を繋ぐ架け橋

特任副病院長　東　光太郎

今年4月から浅ノ川総合病院の地域医療連携担当の特任副病院長を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。当院では大西病院長の方針のもと「救急医療」「がん医療」「地域医療連携」を重要な3本柱として荒木統括副病院長、中瀬副病院長、中野特任副病院長とともに役割分担し全力で取り組んでいます。小生はこれまでPET−CT検査などの画像診断に専念しておりましたので、地域医療連携は初めての経験で、いわば初心者です。それにもかかわらず、地域の医療機関の先生方をはじめ多くの方に温かく対応して頂き心から感謝しております。皆様と接する機会をいただき感じたことは、「心と心の繋がり」がいかに大切であるかということです。直接お会いし、お話を伺うことから、信頼関係が芽生えてくるように思います。地域医療連携とは心と心を繋ぐ架け橋かもしれません。これからもできる限り多くの先生方や患者様とお会いする機会を持ちたいと考えています。

さて、当院では現在新たな取り組みを推進しています。その1つは“かかりつけ医をもちましょう運動”です。「かかりつけ医」は、普段から生活歴などの健康状態を把握し、どんな病気にも相談にのってもらえること、必要な時にはふさわしい専門の医師・病院を紹介してくれることなど、患者様の健康管理にはなくてはならない存在です。当院では、今年4月から導入した連携登録医制度にご登録いただいた255医療機関を「かかりつけ医」のいない患者様に紹介しています。また、退院後や症状の安定した患者様の医療はご紹介頂いた「かかりつけ医」に再び繋ぐお願いをしています。「かかりつけ医」と当院医師が共同で入院診療を行うことのできる「開放病床」のご利用も可能です。2つ目の取り組みは「かかりつけ医」からご紹介頂いた患者様にご満足いただけるよう最善を尽くすことです。このため「紹介患者専用窓口」を設置することや「紹介患者の初診予約制」について検討しています。3つ目の取り組みは、地域住民の皆様との「顔の見える連携」です。このため、当院職員による「出前講演」を新たにご用意しました。本誌5ページでも紹介いたしますが、当院医師をはじめ、薬剤師、看護師、管理栄養士などが皆様のもとに伺い講演いたしますのでお気軽にお申込みください。また地域の先生方とは、各種学術講演会、病診連携勉強会、症例検討会など「顔の見える連携」の会をこれからも定期的に開催していきます。

皆様の「心と心を繋ぐ架け橋」を目指して全力を尽くしたいと思います。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

病院の理念

「皆様の信頼を得る、思いやりのある医療を提供します。」

病院の方針

1. 新しい知識と技術を身に付け、質の高い医療を提供します。
2. 患者の皆様にやさしい、活気にあふれる病院を目指します。
3. インフォームドコンセント（説明と同意）に基づいた治療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の充実に貢献します。
5. 安全性を考え、責任の持てる医療を提供します。

Pick UP!

診療科トピックス **泌尿器科**

最先端
結石治療

ホルミウム YAG（ヤグ）レーザーを用いた尿路結石症治療

泌尿器科　部長　喜久山　明

経尿道的尿管結石砕石術を行う喜久山先生と手術スタッフ

（写真 1）
軟性電子尿管鏡

（写真 2）
ホルミウム YAG レーザー装置

尿路結石症は生活習慣病のひとつですが、食事や生活習慣の欧米化に伴い３０～６０歳代の男性を中心に近年本邦で増えており、全国調査によるとここ４０年間で約３倍も増加しています。

当院では日本海側で最初に体外衝撃波結石破砕術（ESWL）を導入後、経皮的腎結石砕石術（PNL）、経尿道的尿管結石砕石術（TUL）など結石治療の最先端治療をいち早く導入し治療を行ってまいりました。そして今年４月からは高性能 CCD カメラを搭載した軟性電子尿管鏡（写真１）とホルミウム YAG レーザー（写真２）を組み合わせた経尿道的尿管結石砕石術（f-TUL）が導入され、結石治療の選択肢がまたひとつ広がりました。

今回は Q&A 形式で最先端結石治療である f-TUL について紹介してまいります。

Q：f-TUL のメリットはなんでしょうか？
A：内視鏡で結石を直接確認しながらレーザーで結石を砕石・摘出が可能となり、根治を目指すことができます。
Q：対象となる結石は？
A：腎臓・尿管・膀胱と全ての尿路結石に対して、内視鏡的な破砕治療が可能です。
Q：f-TUL はどのような手術ですか？
A：尿道から「軟性尿管鏡」という細い内視鏡を尿管や腎まで挿入し、直接結石を確認しながらレーザーにて破砕します。砕石された結石はバスケットカテーテル（結石をつかむ鉗子（かんし））で回収するため安全かつ確実に結石の摘出が可能で、また本来の尿の通過路を使用するため非常に低侵襲な手術です。しかし、両側の尿路結石や大きな結石など 1 回で破砕・摘出できない場合、尿管狭窄で内視鏡が挿入できない場合などもあります。その場合は患者様の状態や希望に合わせた治療法を選択しています。
Q：麻酔法、手術時間は？
A：原則として全身麻酔ですが、患者様の状態によっては硬膜外麻酔（下半身麻酔）で行うこともあります。手術時間は結石の状態によっても異なりますが、約 1～ 2 時間です。術後問題がなければ手術当日の夕食より摂取が可能です。
Q：入院期間はどれくらいでしょうか？
A：入院期間は 4～5 日間です。

経尿道的尿管結石砕石術（f-TUL）の手順

ガイドワイヤー設置
ガイドワイヤーを腎臓まで挿入
▼
硬性尿管鏡にて拡張を
兼ねた観察を行う

尿管シース＆軟性鏡挿入
尿管シースを
ガイドワイヤー下に挿入
▼
ガイドワイヤーを抜去する
▼
軟性尿管鏡を挿入

結石破砕
腎・上部尿管結石の場合、呼吸性移動を観察後にレーザーショットする
良好な視野を保つため、灌流量を常に調整する

結石回収
バスケットにて破砕片を回収
（尿管シースを利用して完全回収を目指す）

尿管ステント留置
尿管ステントを破砕片の量や粘膜損傷の程度に応じて、
１日から２週間程度留置

浅ノ川総合病院 泌尿器科では、これからも患者様に優しく、かつ高度な医療を提供していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

特別座談会 認定看護師に合格したお二人に聞きたい!!

前編

「認定看護師」取得までの道のりとその後。

「認定看護師」とは日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護師を指します。役割としては看護現場において実践・指導・相談の３つを行うことにより、看護ケアの広がりと質の向上を図ることに貢献するとされています。

今回は今年「認定看護師」の資格を取得した、余田昭彦さんと江波麻貴さんに認定看護師の実態とこれからの抱負などをお聞きしました。聞き手は今年で看護師４年目を迎えた石田愛河さんです。

聞き手

石田 愛河
（いしだ あいか）

看護師歴：４年目
本館７階病棟勤務

透析看護認定看護師
余田 昭彦
（よだ あきひこ）

看護師歴：15年目
透析センター勤務（副看護師長）

感染管理認定看護師
江波 麻貴
（えなみ まき）

看護師歴：10年目
感染対策室勤務

なぜ「認定看護師」に？

石田愛河（以下石田）　私は学生の頃に授業の中で「認定看護師」という存在を知って、看護師の資格プラスアルファの資格が持てるというのは素敵だな、と漠然と思っていたのですが、実際看護師として働くと日々の業務に追われて、そう思っていたことさえも忘れていました。今年４年目になって、少し余裕ができたのですが、お二人が資格を取ろうと思った時、勤務されて何年目くらいでしたか？きっかけはどういう事でしたか？

余田昭彦（以下余田）　看護師として今までずっと透析センターで勤務していて、10年目くらいに当時の師長に勧められたのがきっかけです。しかし、その当時は家族と自分自身の思いが十分に固まっておらず、実際にもう少し後で病院のバックアップ体制も整ったこともあったのと、これまでの経験をいかしたいと考え、これを機にチャレンジしてみようと思いました。

江波麻貴（以下江波）　認定看護師を目指したのは６年目くらいです。3年目くらいで海外の看護師を目指そうと思い、いろいろな話を聞いたり資料を集めたりしたのですが、海外と日本の背景も違う中、日本でどこまで看護してきた？という質問を受けた時「まだまだ学習することがある、日本でがんばろう」と決意しました。もっと突き詰めたものを目指したいと考えていた時、人工呼吸センターに開設と同時に配属され、リンクナース※1も勤めさせていただきました。感染対策専任看護師長である林師長から指導していただきながら病棟での活動や様々な研修会に行き、学習していけばいくほど、感染管理の面白さを実感しました。この感覚を皆で共有して、皆で感染管理をやりたいと思ったことがきっかけでした。

※1：医療施設のなかで、専門チームや委員会（感染制御チーム、褥瘡対策委員会など）と病棟看護師をつなぐ（リンクさせる）役割を持つ看護師のこと。

「認定看護師」は教育機関受験が第一関門！

石　田　認定看護師取得の期間はどのくらいでしたか？

余　田　私の選択した透析看護分野は教育機関が東京女子医大の一つしかありません。教育機関により入学時期が違ってきますが、私は 10 月から翌年の３月までの半年間が実際の出張扱いとなっていました。受験から合格までを含めれば約１年間から１年半の期間でした。

江　波　私も教育課程受験から換算すると約１年間かかりました。まず、認定看護師教育課程に受験し合格する必要があり、受験勉強は３～４ヶ月前から本格的に取り組みました。教育機関は神戸研修センターで、入学してから半年間の研修期間を過ごしました。教育機関の選択はできましたが、倍率や立地条件などは様々です。卒業後は約３ヶ月後の５月に認定試験を受験し、約１ヵ月半後、合否発表がありました。

余　田　受験するには上司の推薦書も必要なんですよ。

江　波　受験する前に願書を書くことがまず大変で、資料を揃えるのにも時間がかかりました。

全面的にバックアップ！！当院のサポート体制

石　田　認定看護師を目指す時の病院のサポート体制はどうでしたか？

余　田　経済的なことは全てバックアップしてもらいました。受験料、家賃、図書費、授業料そして東京－石川間の交通費もいただきました。給料も基本給を毎月いただけたので助かりました。

江　波　同じように認定看護師を目指していた仲間の中には、自己負担が何割か必要な人や、実際に職を辞めないといけなかったりする人もいたので、自分たちはとても恵まれていました。

石　田　数週間の研修や出張でも勤務体制が厳しいと思うのですが、長期間の出張において周りのスタッフや上司のサポートはありましたか？

余　田　色々と迷惑をかけたと思いますが、「頑張ってね！」という感じでした。推薦書もしっかり書いていただきました。

江　波　病院としても認定資格はぜひ取得してほしいという意向でしたし、周りの先輩からの応援もありました。

余　田　まずはプレッシャーよりも腕試しという感じで受験させてもらえました。

NEXT▶▶後編は次号にて！

部門紹介 **薬剤部**

患者様にとって有効かつ安全な薬物治療をサポートいたします。

薬剤部では、薬物療法の有効性と安全性を確保するために、医薬品の適正使用に努めています。薬に対する正しい知識と最新の情報に基づいて処方箋を監査し、適正に管理された医薬品を用いて正確な調剤を行っています。そして患者様が正しく服薬できると共に、副作用の重篤化を回避するために、服薬指導と情報提供を行っています。

また、感染対策チーム、栄養サポートチームや医療安全委員会、緩和ケアチーム、褥瘡チームなどにも参加し、チーム医療の一員として薬剤師の職能を発揮しています。

現在、薬剤部には 19 名の薬剤師と 1 名の事務員が勤務しています。

薬剤部の主な業務

外来・入院調剤業務

医師より出された処方箋をもとに薬を調剤しています。調剤するにあたり、個々の患者様にとって処方された薬の量や使用方法に問題がないか、飲み合わせに問題がないかなどを監査しています。また、当院では院外処方箋の発行率が 95%以上となっています。その処方内容もすべて当院薬剤師がチェックしています。

がん化学療法無菌調剤業務

抗がん剤は投与を受ける患者様の副作用への配慮と同時に薬剤を取り扱う者への配慮も大変重要です。そこで薬剤部では無菌性と調剤者の安全性が担保される安全キャビネットを用いて抗がん剤の調製を行っています。また、調製の際には投与量や投与間隔のチェックを必ず行い、抗がん剤による治療が安全に正確に行えるように支援を行っています。

医薬品情報管理業務（DI 業務）

薬物治療における薬の適正な使用方法や副作用情報、新薬についての情報など、さまざまな情報を収集・管理しており、患者様および医療従事者からの薬の問い合わせに対応しています。他にも、医薬品情報誌「DI news」を毎月発行し医薬品安全に貢献しています。また、患者様が入院する際は持参薬をはじめ、市販薬、サプリメントの服用状況を把握し、入院後の治療に問題がないかチェックしています。これらの情報は医師、病棟薬剤師に伝えられ、入院後の治療に役立てられています。

薬剤管理指導業務

全ての病棟に担当薬剤師が配属され、患者様が入院前に服用していた薬剤の確認、入院後に開始される薬剤の説明、退院時のお薬手帳を用いた地域医療の連携などに関わっています。病棟薬剤師は医師・看護師などの医療スタッフと協力しながら患者様中心のチーム医療に参加しています。TDM（治療薬物モニタリング）による処方設計・提案を行うなど、薬の専門家として安全・安心で質の高い薬物療法を提供できるよう努めています。

自己研鑽の職場であるということ

薬剤部 部長　森　正昭

日進月歩の薬物治療において、患者様によりよい医療を提供するために日々研鑽に励んでいます。毎日就業時間の30分前に集合して医薬品情報収集のための勉強会や処方解析、症例検討会を行っています。また、多くの学会に参加して当薬剤部の取り組みや知見を発表し、各種の認定・専門薬剤師取得にも取り組んでいます。

お薬のことで何かお困りのことやご相談があればお気軽に薬剤部にお問い合わせ下さい。

地域の皆様へ　出前講演はじめました！

浅ノ川総合病院は「地域に根差した医療を提供し、信頼され、選ばれる病院」を目指しています。

地域の皆様との交流、健康づくりに対する意識と知識向上を目的に、当院職員による「出前講演」をご用意いたしました！皆様が知りたい、興味がある講演にお申し込みください。当院医師や看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどが地域の皆様のもとに伺います。（講演は無料です）

出前講演の講演内容は当院ホームページを参照していただくか、地域連携室までお問い合わせください。

出前講演の様子

株式会社トランテックス様にて

■ 開催記録

9/28　金沢ライオンズクラブ例会にて
演題：三世代で取り組む　骨粗鬆症の予防と治療　演者：船戸元子薬剤部副部長

10/16　高齢者在宅仲介センター勉強会にて
演題：身近な介護保険制度　演者：金子あさ子医療福祉がん相談室副室長

10/18　株式会社トランテックス講演会にて
演題：自分でやってみよう生活習慣病予防　演者：織田展成内科医長

あさのクッキングスタジオ　栄養部監修

メニュー「れんこんバーグのきのこあんかけ」

エネルギー：278kcal　炭水化物：19.9g
タンパク：19.7g　食物繊維：2.9g
脂質：12.3g　塩分：1.9g

ワンポイント
きのこはあんかけにすることで、煮汁に溶け出したビタミンBも摂取できます。

寒さに負けるな！風邪予防レシピ

旬の食材で強い身体づくり

地元の食材として昔から親しまれてきた小坂れんこん。今回は、今が旬の小坂れんこんと、きのこを使った風邪予防にピッタリのレシピをご紹介します。これからの寒い季節に、是非お試しください!

・れんこん…ビタミンC:免疫力を高める。
　れんこんはみかんの約1.5倍のビタミンCを含む。
・きのこ…ビタミンB群:たんぱく質の吸収を助け、丈夫な身体をつくる。

材料（2人分）

<れんこんバーグ>

・小坂れんこん	1/2節（5mm角）
・鶏挽き肉	150g
・パン粉	1/2カップ
・牛乳	大さじ2
・塩	小さじ1/4
・こしょう	少々
・ごま油	小さじ1

<あん>

Ⓐ	・しめじ、えのき	各1/3袋（一口大）
	・にんじん	1/8本（細切り）
Ⓑ	・だし汁	150g
	・砂糖、しょうゆ	各小さじ1
	・片栗粉	大さじ1
	・サラダ油	小さじ1
	・万能ねぎ	少量（小口切り）

作り方

❶ 切ったれんこんを酢水にさらす。

❷ ボウルにパン粉と牛乳を合わせ、鶏挽き肉、塩、こしょうを加えてよく練る。

❸ れんこんの水気をきって❷の肉だねに加え、よく混ぜて小判型にまとめる。
ごま油を熱したフライパンで両面を焼く。

❹ フライパンにサラダ油を熱し、Ⓐを炒める。Ⓑを加えて煮立ったら、同量の水で溶いた片栗粉を加えてとろみをつける。

❺ ❸の れんこんバーグを器に盛り、❹の きのこあんをかける。上から万能ねぎを散らす。

定位放射線治療研究チーム北國がん基金助成を受ける !!!

■北國がん基金事業について…

当院の大西寛明病院長他 2 名の定位放射線治療研究チームが、このたび第 26 回北國がん基金の助成を受けました。北國がん基金とは北國新聞社の提唱運動で石川県民の皆様からの寄付金の運用益を使って、がん征圧に関する助成事業、啓発活動などに役立てられており、中でも主要事業である北國がん基金助成は「がん征圧月間」に行い、金沢大学、金沢医科大学、北陸大学、石川県健康福祉部、石川県医師会などの専門家による選考委員会の答申で理事会が決定した研究者とその活動に対して助成金が贈呈されます。

26 年間の同基金の歴史の中でも民間病院への贈呈は異例のことであり、あらためて当院に対する石川県民の皆様のご期待に身の引き締まる思いです。

■助成研究内容
直径3センチ以上の転移性脳腫瘍に対する低侵襲的治療法、ノバリスを用いての定位放射線治療の至適放射線量の確立

■助成対象者
大西　寛明　浅ノ川総合病院病院長
光田　幸彦　同脳神経外科部長
太郎田　融　同放射線部技師長

■助成金額　100 万円

行事レポート

10 月 14 日
第 19 回浅ノ川グループ関連施設ソフトボール・小運動会が行われました

秋晴れのもと、浅ノ川グループと関連施設によるソフトボール・小運動会が開催されました。15の医療機関や施設、学校が参加し、当院からは小市理事長をはじめ、多くの職員が参加しました。

ソフトボールの試合では、1点を争う好ゲームとなりました。残念ながら1勝1敗という結果でしたが、参加した職員からは「来年、絶対勝とうね」という声が上がるほど、白熱した試合展開となりました。

二人三脚では本番前の練習の成果もあり、抜群のチームワークで決勝トーナメントに進出。参加者だけでなく、応援の職員も含め、大いに盛り上がりました。

当院ではこのような行事を通じて多職種の職員同士の交流、さらにグループ病院との交流を深め、チーム医療や地域医療をより強化なものにできる病院にしていきたいと思っております。

10 月 19・20 日　ふれあい感謝祭 2012 開催 !!

毎年恒例の「ふれあい感謝祭」が今年も当院で行われました。

無料の健康チェックコーナーには 2 日間でおよそ 250 名の方が受付され、体脂肪や骨密度、血管年齢などを測定しました。また、専門のスタッフによる健康相談や栄養指導では、日頃の生活習慣や食事などについて熱心に聞いている来場者の姿が多く見受けられました。

公開健康講座では「知っておきたい骨の話」と題し、当院整形外科部長、徳海裕史先生が骨粗しょう症について実際の例を挙げて分かりやすく説明し、大好評でした。

その他、オープンカフェではソフトクリーム、コーヒーなどの無料サービスに加え、今年はワッフルも振舞われました。そして、今年の目玉イベントの一つとして当院の、ゆるキャラ「あさのちゃん」が登場し、皆様に挨拶できました。

日頃からお世話になっている地域の皆様と、このような交流の機会をこれからも続けていき、「あさのちゃん」共々愛され、信頼される病院を目指していきたいと思います。

編集後記

芸術の秋、食欲の秋、運動の秋…私「あさのちゃん」はどの秋が似合っていますか？10 月のふれあい感謝祭では、皆さんとお会いできてとっても楽しかったです。たくさんのご来場、ありがとうございました。私は健康チェックやコンサート、体操にも参加したんですよ！ところで、みなさんはどんな秋を堪能していらっしゃいますか？冬支度もそろそろですかね。脂肪のつけすぎにはくれぐれも注意しましょう！

問い合わせ先
広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。
TEL 076-252-2101（代）　メールアドレス：kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

発行／編集　医療法人社団 浅ノ川　浅ノ川総合病院　広報室　〒920-8621　石川県金沢市小坂町中83番地　TEL076-252-2101　web http://www.asanogawa-gh.or.jp/　vol.3